恐怖の味噌汁

デクテール

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
恐怖の味噌汁

【Ｎコード】
Ｎ６０７２Ｃ

【作者名】
デクテール

【あらすじ】
みんな良く知ってる恐怖の味噌汁の話。単なる駄洒落じゃないんだよ。

「ただいま」
「おかえり」
お帰りって言ってもらったのはいつ振りだろう。
父さんの会社が倒産して（これを言うと母が鬼の形相で掴みかかってくる）お金も無くなった。
家族の中はどんどん仲が悪くなって、みんななにも話さない。
お姉ちゃんは家に帰らなくなって、お兄ちゃんはやくざになってつまらない事で小指をつめた（これを言うとお兄ちゃんはドスを持ち出してくる）。
お父さんが帰ってくるとお母さんが嫌味を言い夫婦喧嘩が始まる。
一度これに犬をけしかけたら（夫婦喧嘩を犬に食わせようとしたんだ）２階のベランダから落とされた。
そんな状態だからお母さんから返事が返ってくるのは珍しい。
僕はうれしくなって続けた。
「今日の晩御飯何？」
「今日、『ふ』の味噌汁よ」
お母さんはそう言って味噌汁を運んできた。
何日ぶりだろう。
具の入ったお味噌汁は。
お味噌汁の中を見る。
麩と葱と茸の入ったお味噌汁だ。
やけに言い匂いがする。
「ねえ、お母さんこれってもしかして」
「そうよ。マツタケよ」
久しぶりどころか初めてだ。
初めてマツタケを食べるんだ。
早くお父さんもお姉ちゃんも弟も帰ってきたら良いのに。

今日はこんなに良い日だから。
「お母さん。何で今日はこんなに良い物が食べられるの？」
お母さんが振り返って優しく笑った。
そして僕に一枚の紙をくれた。
あみだくじだ。
僕の名前のところに星がついている。
「あみだくじで当たったから？」
「そうよ」
お母さんがまた笑った。
いつ振りだろうこんな笑顔のお母さんは。
「食べる前に手を洗ってらっしゃい」
「はい」
僕は急いで洗面所に向かった。
こんなに良い日なんだ。
お手伝いをしよう。
僕はお母さんのためにお風呂を沸かしてあげることにした。
お風呂場の扉は閉まっていた。
僕はお風呂場の戸を開けた。
最初に見えたのはお父さんだ。
お父さんがぶら下がっていた。
次は弟。
床に倒れている。
まわりが真っ赤だ。
最後にお姉ちゃん。
水の入っているお風呂の中に頭を入れて動かない。
「あみだくじであなたが生き残ったのよ」
後ろを振り返るとお母さんがいた。
マリア様のような顔だ。
ほけんきん。

お母さんがちょっと前からよく言ってたっけ。
「お母さん今日のお味噌汁……」
「そう。恐怖の味噌汁よ」
分かった。
人が死ねばお金が貰えるんだ。
人が死ぬほどおいしくなるんだ。
このお味噌汁は。
僕はもっとおいしいお味噌汁が食べたくなった。

（後書き）

作者は前日に貴志ゆうすけの『黒い家』を読みました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6072c/

恐怖の味噌汁

2010年10月28日06時45分発行